

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度		授業の種類 (講義)・演習・実習		授業担当者 保田 浩美	
回数 15回	時間数 (単位数) 30時間	配当学年・時期 1年 後期		必修 ・ 選択	
[授業の目的・ねらい] 児童・家庭の生活実態の変化と福祉ニーズ、子どもの権利条約、児童福祉に関する法・制度とサービスの体系について、その概要の理解を目的に講義する。					
[授業全体の内容の概要] 現代社会における児童・家庭福祉の理念と意義について、その歴史をふまえて理解させることを目的とする。現代日本の子どもをとりまく社会的背景・問題状況とともに、児童の成長・発達と生活実態、子どもの権利保障の問題などについて学習し、子ども・家庭福祉の現代的問題について考察する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1) 日本の子どもをとりまく背景・問題状況を理解する。 2) 児童・家庭福祉施策の概要を理解する。 3) 児童・家庭福祉サービスと専門職を理解する。 4) 子どもの権利条約を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 少子高齢社会と次世代育成支援 2. 現代社会と子ども家庭の問題 3. 子どものための福祉の原理 4. 児童福祉の発展 5. 子ども家庭福祉の法体系 6. 子ども家庭福祉の実施体制 7. 子ども家庭福祉の専門職 苦情解決と権利擁護 8. 母子保健 9. 児童健全育成 10. 保育 11. 子育て支援 12. 児童の社会的養護サービス 13. 児童虐待 14. 子ども家庭への援助活動 15. 国家試験対策 後期末試験					
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 中央法規出版 社会福祉小六法2021〔令和3年版〕ミネルヴァ 書房			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、試験、出席状況から総合的に評価し、単位認定を行う。下記の記載内容も留意すること。 ※1 試験の評価基準：6割以上の成績にて合格。 ※2 出席の評価基準：欠席が多い場合には、後期試験の受験資格が得られない。また、単位認定も行われない。		